

今週（12月25日から12月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週前半は調達ニーズの強い地合いが継続したものの、週後半になると、ビッドサイドの一部にレートを引き下げの動きが見られた事や年末要因により調達を控える先が見られた事から、全体のレート水準が低下する展開となった。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、週初25日(月)から26日(火)は▲0.011%、その後は緩やかに低下する流れとなり、27日(水)は▲0.013%、28日(木)は▲0.016%、本年最終営業日となった29日(金)は、年末年始を跨ぐ取引となる事からビッド件数の減少に加え、調達量を限定する先も多く見られたため、レート水準は一段と低下した。

ターム物に関しては、年明けスタートのショートタームを中心に出会いが散見された。

日銀当座預金残高は545兆円程度からスタートし、週後半にかけてやや減少したものの、概ね横這い圏での推移となった。

●レポ市場

今週のGC T/N物は▲0.20～▲0.085%近辺で推移した。28日(木)のT/Nは、年末年始を跨ぐ取引となった事で一時的にレートが低下したものの、全般的に週を通してオファーが優勢なマーケットとなった。

SC取引の個別銘柄では、2Y440～455回、5Y150～163回、10Y355～372回、20Y180～186回、30Y65～80回、40Y13～16回などで引合いが多く見られた。

また、25日(月)にオファーされた国債買入オペでは、残存期間3年超5年以下と残存期間5年超10年以下の買入額が減額された。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンが軟調に推移した。

26日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末週にあたり幅広い業態で大型発行が見られた。

市場発行残高は、引き続き28兆円台の高水準で推移している。

発行レートについては、日銀適格担保銘柄では概ね0%前後での出会いが中心であった一方で、ロングターム物の案件では、日銀による政策変更への警戒感からか、レート水準にばらつきが見られた。

また、26日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は按分レート+0.005%、平均落札レート+0.023%と前回（按分+0.001%、平均+0.005%）比で按分、平均ともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/25 (月)	33,254.03	0.610	142.25	△ 0.011	△ 0.110	5,453,200
12/26 (火)	33,305.85	0.629	142.20	△ 0.011	△ 0.110	5,454,100
12/27 (水)	33,681.24	0.595	142.65	△ 0.013	△ 0.109	5,449,700
12/28 (木)	33,539.62	0.584	141.65	△ 0.016	△ 0.129	5,440,900
12/29 (金)	33,464.17	0.615	141.62	△ 0.039	△ 0.108	5,436,800

来週・再来週（1月1日から1月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/1 (月)	元日				New York、EURO、London祝日 (New Year's Day)
1/2 (火)					
1/3 (水)					11月の米建設支出 12月のISM製造業景況指数
1/4 (木)					
1/5 (金)	12月のマネタリーベース(日銀 8:50) 12月の消費動向調査(内閣府 14:00) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TB3M 56,000億円 1/9発行	流動性供給 5,000億円 1/9発行		12月の米雇用統計 12月のISM非製造業景況指数 11月の米製造業新規受注・出荷・在庫 12月のユーロ圏消費者物価指数速報値
1/8 (月)	成人の日				11月の米消費者信用残高
1/9 (火)	1月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 12月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の全世帯家計調査(総務省 8:30)	TB6M 40,000億円 1/10発行			11月の米貿易収支
1/10 (水)	11月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	10Y 27,000億円 1/11発行	交付税借入 13,000億円 1/18借入		11月の米卸売売上高
1/11 (木)	日銀支店長会議(さくらレポート) 12月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 11月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				12月の米消費者物価指数 12月の米財政収支
1/12 (金)	11月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 12月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 56,000億円(見込) 1/15発行	30Y 9,000億円(見込) 1/15発行	エネルギー 対策借入 6,400億円(見込) 1/22借入	12月の米生産者物価指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/1 (月)	元日								
1/2 (火)									
1/3 (水)									
1/4 (木)	2,300	▲ 10,800	▲ 8,500	国債補完	41,800		41,800	33,300	2Y発行▲29,000 償還19,200
1/5 (金)	3,000	▲ 5,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
週間合計	5,300	▲ 15,800	▲ 10,500	—	41,800	0	41,800	31,300	
1/8 (月)	成人の日								
1/9 (火)	2,000	▲ 41,000	▲ 39,000				0	▲ 39,000	税・保険料揚げ TB3M発行▲56,000 償還55,300 流動性供給▲5,000
1/10 (水)	3,000	1,000	4,000	全店共通	▲ 12,600		▲ 12,600	▲ 8,600	TB6M発行▲40,000 償還39,800
1/11 (木)	2,000	▲ 27,000	▲ 25,000				0	▲ 25,000	10Y発行▲27,000
1/12 (金)	2,500	▲ 15,000	▲ 12,500				0	▲ 12,500	源泉税揚げ(大幅)
週間合計	9,500	▲ 82,000	▲ 72,500	—	▲ 12,600	0	▲ 12,600	▲ 85,100	

1/4は日銀予想、1/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、年明け後の残り営業日数が少ないことから、オファー、ビッド両サイドの動向が注目される。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、レートは▲0.15～▲0.08%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、5日に3M物、9日に6M物、12日に3M物の入札実施が予定されている。また、11日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、月初発行にあたり、発行案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では9日に12月の都区部消費者物価指数(CPI)、12日に11月の国際収支、海外では、3日に12月のISM製造業景況指数、5日に12月の米雇用統計、12月のISM非製造業景況指数、12月のユーロ圏消費者物価指数速報値、11日に12月の米消費者物価指数(CPI)などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入